

森林・木材の放射能

原発事故と山菜

清野 嘉之（研究コーディネータ（林業生産技術兼国際研究担当））

福島第一原子力発電所事故は山菜にも深刻な放射能汚染をもたらしました。山菜には栽培品と野生品があり、栽培品については出荷制限とその解除、除染といった一般の野菜と同じような処理の手段を講じられます。しかし、野生品は「天然もの」の価値がある反面、採取地が特定されない場合が少なくなく、栽培品と同じことはできません。森林総合研究所では二〇一二年五月以来、福島県などで野生の山菜や薬用植物を採取し、放射性セシウム濃度や採取地の空間線量率を計測しています。それによると、山菜植物の放射性セシウム濃度と空間線量率との間には正の相関関係がありました。空間線量率が同じでも、イワガラミのように他の樹木に張り付くための付着根を持つ種や、地形的に周囲より低く、表層水や地下水が集まる土地に育った山菜植物はより汚染されていました。二〇一三年春に空間線量率が〇・八マイクログシーベルト／時（ $\mu\text{Sv/h}$ ）以上の場所で採取した山菜に、出荷制限の目安となる生重一キログラムあたりのベクレル数が一〇〇以下のものはありませんでした。これらの結果にもとづき、高濃度汚染の野生山菜を採る危険を減らすためのガイドラ

イン（案）を次のように作成しています。
（一）空間線量率（Japan Atomic Energy Agency, <http://ramap.jnc.or.jp/map/eng/>）が高い場所ほど、山菜は汚染されています。二〇一三年の春に空間線量率が〇・八 $\mu\text{Sv/h}$ 以上あった場所では、山菜を採らないようにして下さい。

（二）空間線量率が同じでも、付着根を持つ山菜や、集水地形（窪地や谷型をした地形で、地表面水や地下水が集まりやすい場所）で育つ山菜は、より汚染されています。

（三）放射能汚染された場所ではコシアブラの芽は採らないで下さい。コシアブラは空間線量率が〇・二 $\mu\text{Sv/h}$ 以上の場所では強く汚染されている可能性があります。空間線量率以外にコシアブラの汚染度を高める条件にどのようなものがあるのか、現時点では不明です。

（四）放射性物質の減衰や生態系内での移動に伴い、空間線量率と放射能汚染の関係は刻々変化していくと考えられます。判断に当たっては、最新の情報を利用するようにして下さい。



野生のフキとミズ（ウワバミソウ）

詳しくは[http://ritchi.ac.affrc.go.jp/PDFvol55no2/55\(2\)_2013_113-118.pdf](http://ritchi.ac.affrc.go.jp/PDFvol55no2/55(2)_2013_113-118.pdf)をご覧ください。

[http://ritchi.ac.affrc.go.jp/PDFvol55no2/55\(2\)_2013_113-118.pdf](http://ritchi.ac.affrc.go.jp/PDFvol55no2/55(2)_2013_113-118.pdf)